

# 児童部会研修会報告 「子どもから学ぶ、ゆたかな愛と性を」

## 講師は性教協障がい児サークル 渡邊 武子先生



緑区児童部会では、10月2日（火）に、障がいのある子どもの性について、「もっと勉強したい！」「学習会をやりたい！」という声が上がリ、岐阜県で知的障がい者の劇団「ドキドキわくわく」の主宰者でもある、渡邊武子先生をお招きし、研修会を行いました。今回は南区と合同の企画だったこともあり、合計44名の参加者が緑区役所講堂に集まりました。子どもの性の行動をどのように考えればいいのかなど、私たちの仕事の基本となる人権の問題についても考える研修となりました。

場所は緑区役所講堂！  
たくさんの方が  
集まりました！



## 研修はみんなで考える、ワークショップ形式

研修はワークショップ形式で行いました。各グループ6～7人で構成し、それぞれが事業所で抱えている子どもの性に関わる課題を発表してもらい、その中で一つの事例を取り上げます。その事例を今度はグループで話し合い、事例を深めていくという作業に移っていきます。事例の裏に隠れている背景を探り、仮説を立てていきました。各グループでは、ファシリテーターを中心に活発な意見が出されていました。最後に、グループで話し合ったことを発表していただきました。お疲れさまでした！



## 研修を終えた参加者より・・・

- ・一人の子を事例に出しながら、意見交換をすることで、自分の考えになかったことなど様々な考え方を知ることができた。事業所の子に似たような事例を思い浮かべたり、自分のかかわりを振り返るきっかけになった。
- ・自分たちの問題として具体的に解決策を考えようとする事ができた。少し大きくなった子たちに起こってくるかもしれない問題に触れることもできた。
- ・初対面の方がほとんどでしたが、様々な立場での具体的なお話をお聞きできて良かった。ファシリテーターの方が上手に進めてくださって、課題に対しての仮説や実践まで、話を勧められて充実した研修になった。
- ・目からうろこの話がたくさんあった。性を遠ざけている部分がたくさんあり、うやむやにして支援していたことがあり、今後の支援に取り入れていきたい。
- ・どんな行動にも理由があるように、単にダメではいけないこと、子どもたちは知識がないので、知識を与えなくてはならないこと。性に対する目覚めなど、ちゃんと教えていかなくてはならないことなど、目からウロコでした。障害のあるお子さんの、自分の気持ちを表現することのチャンスを、つかんでいくことが大切であると思いました。